

## 註

- (1) 若月省吾 1980 「笠懸稻荷山遺跡」 笠懸村教育委員会 井上唯雄・若月省吾 1983 「笠懸村の原始古代」『笠懸村誌 別巻』  
若月省吾 1986 「笠懸稻荷山遺跡」『群馬県史 資料編2』
- (2) 井上唯雄他 1975 「金井製鉄遺跡発掘調査報告書」 渋川市教育委員会
- (3) 飯島武次・穴沢義功 1969 「群馬県太田市菅ノ沢製鉄遺構」『考古学雑誌 55-2』  
飯島武次・穴沢義功 1970 「太田市菅ノ沢製鉄遺構の補足調査と化学的検討」『考古学雑誌 56-3』  
大江正行 1986 「菅ノ沢製鉄遺跡」『群馬県史 資料編2』
- (4) 木津博明 1986 「外擅山遺跡」『群馬県史 資料編2』 新里村教育委員会 1982 「十三塚遺跡」

## 参考文献

- 中山吉秀 1976 「離れ国分考」『古代 61号』  
土井義夫・渋江芳浩 1987 「平安時代の居住形態」『物質文化 49号』

## 第3節 塩之入城について

塩之入城については、山崎 一著『群馬県古城墨跡の研究 下巻』に記載されているので、まずそれを引用しておく。

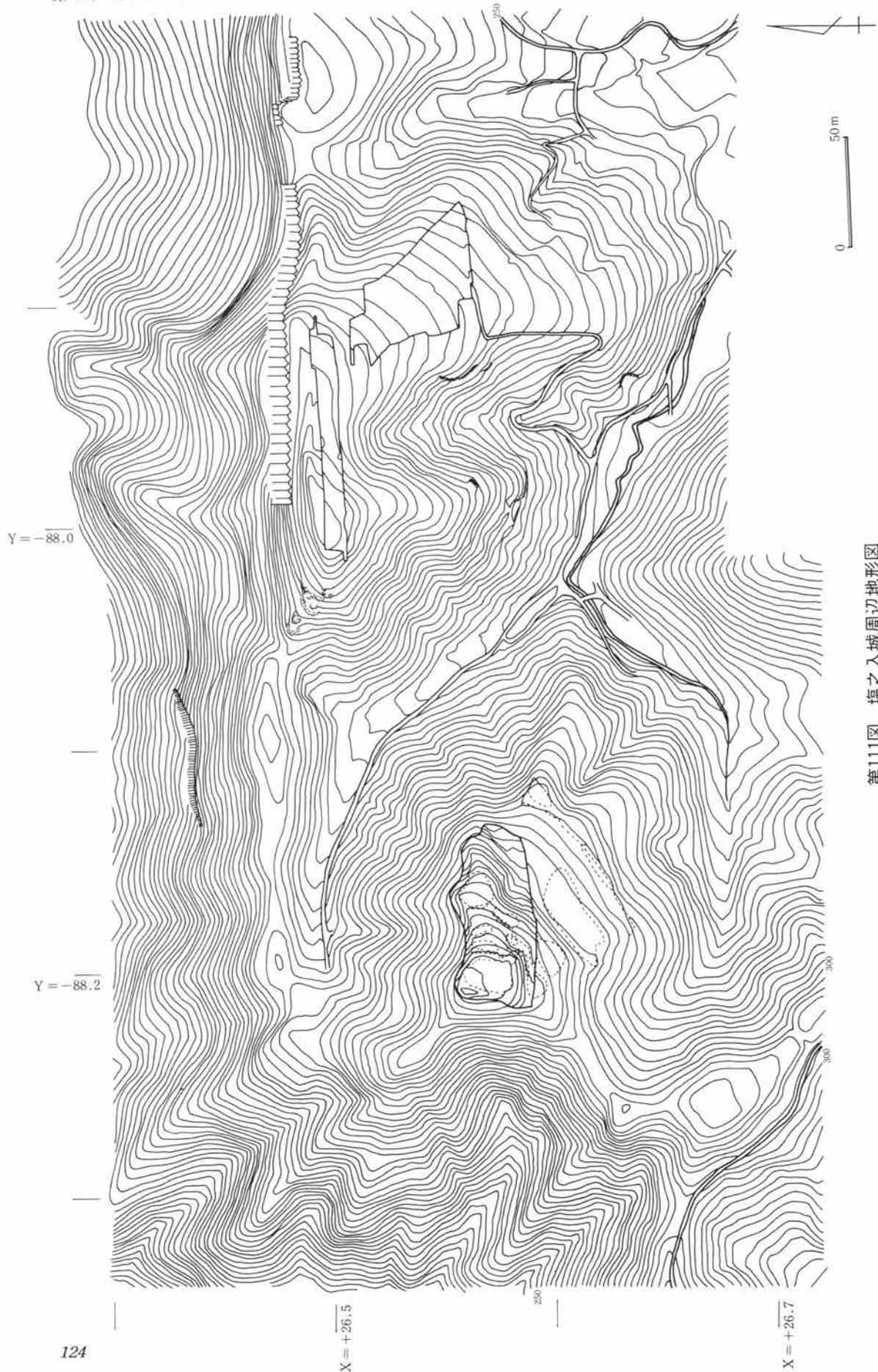
「野上の塩の入に塩の入城址がある。順路は鞘戸から北に入るのであるが、その位置は神農原の南、鏑川の直上、三角点323mの所で、大山城址からは500mの距離にある。

西北端の最高所を本丸とした梯郭式の丘城で、階段状に築かれ、本丸は方30m程あり、西側に土居を構えている。南北120m最大幅70mの小堡で、追手は南面に向う。藤田城の堡壘と考えられる。」

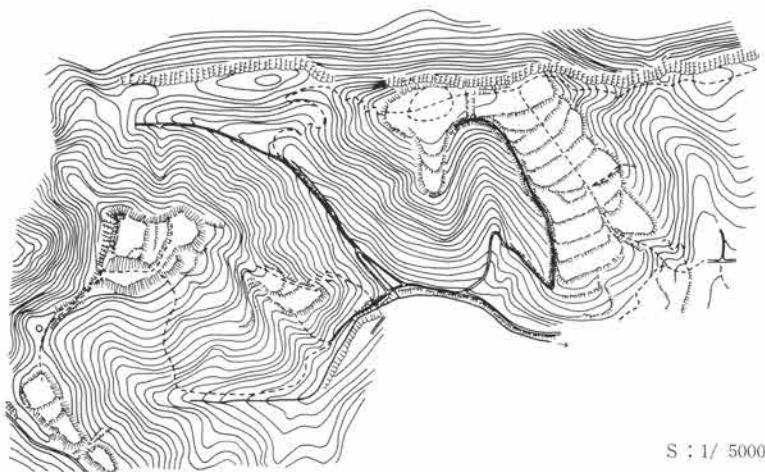
調査の結果、北西部の平坦面を主郭とし、東側に3カ所曲輪が検出されたがその先には曲輪はないものと考えられる。南側は主郭から4m下に曲輪面があつて調査区外へ続いており、さらにその南東にも平坦面があり、曲輪が存在する可能性がある。このように曲輪は主郭の東側と南東に広がっているが、東西長は北端部で55m、南北長は最大50~70mになる。主郭部の西辺から北辺の西側にかけて、地山岩盤が露呈した帶状の高まりがあり、盛り土をしたものではないが、土壘として機能していた可能性は高い。虎口は、主郭部南西隅に岩盤の割石を枠形状に組んだ部分で、下方に階段状の遺構も検出されており、大手が南に向いていることがわかる。

上記『古城墨跡の研究』においては、城の縄張りは主郭部周辺だけであったが、その後の調査で、谷を隔てて東にある野上塩之入遺跡B区も城の縄張りの範囲に入るよう訂正された(第112図)<sup>(1)</sup>。B区北西部の小平坦面は、「テシロ」と呼ばれていたが、発掘調査により東側に南北に走る溝が検出され、東西に長い丘陵を分断して「テシロ」部分を独立させていることが判明した。しかしながら、城郭に関係すると思われる遺構や遺物は全く検出されていない。溝の東側は、第112図で城郭の範囲とされているが、曲輪と考えられるような平坦面は検出されず、遺物もなかったため、城の縄張りの外になると思われる。また、主郭部の南西部にも「テシロ」部と同様の平坦面がある。ここは発掘調査区外であるため詳細は不明であるが、おそらく「テシロ」部とともに城の一部となり、全体で城として機能していたのであろう。

藤田城とは『群馬県古城墨跡の研究 下巻』に「二ツ山、塩ノ入、岩染、浅香入、西平、茶臼山の諸砦によって守られた野上の盆地を藤田城の城域と考うべきではあるまいか。(中略) こうして藤田城は南北朝期における地域城と考えることができる。」とある。地域城とは、地形的に外部と隔離しやすい地域を城内とし、周囲を城砦で固めている自然の城郭ともよべるもので、『群馬県古城墨跡の研究 上巻』にも「富岡の野上地区も一つの城域である。二ツ山、岩染、浅香入、野上の四城を周囲に配したこの地区には藤田氏が居城したもので、その文献はわづかに興厳寺に残っている。藤田能登守信吉はここの出身である。藤田峠の城というのはこの城域を指すのかも知れない。」とある。野上川は稻含山に源を発し、野上の日向まで北流しそこで東



第111図 塩之入城周辺地形図



第112図 塩之入城縄張り図(山崎原図)

北東に流れを変え、上高瀬の森でまた北流して鏑川に合流している。北流している間は山地および丘陵地を流れるため両岸の低地部分は非常に狭いが、東北東流する部分で広がり両岸の低地部分が幅350m程となり、約3.5km続く。低地の両側は丘陵地および上位段丘になっている。藤田地域城はここを城域とすると考えられ、東端は東北東に流れが変わる部分で、ここに野上の砦がある。西端には茶臼山の砦があり、その間には野上川の右岸に岩染城、浅香入城、左岸に塩之入城、西平城がいずれも丘陵上に存在している。このため、この6城で守られた低地部分が自然の城郭をなしていることは、かなり妥当性のあることで、塩之入城は、その北側の守備を固める重要な役割を果たしていたのであろう。

さて、鏑川の流域に視点を広げてみると、塩之入城の周辺には、第113図に示したように多くの城郭が分布している。このうちの41か所を表に掲げたが、これを立地により分類すると、山城が11、丘城が16、平城が2、崖端城が5、丘山城が2、平丘城が1、平城、丘城、山城を合わせたものが1、傾斜地に立地するものが2となっている。地形を見ると、鏑川の下位段丘面に立地するのは大島下城と星田城だけで、他はすべて鏑川上位段丘面と丘陵地上に立地している。鏑川の北岸と南岸で見ると、南岸の方が急峻な地形であることも影響するためか、南岸に山城が多く、北岸では丘城が多くなっている。

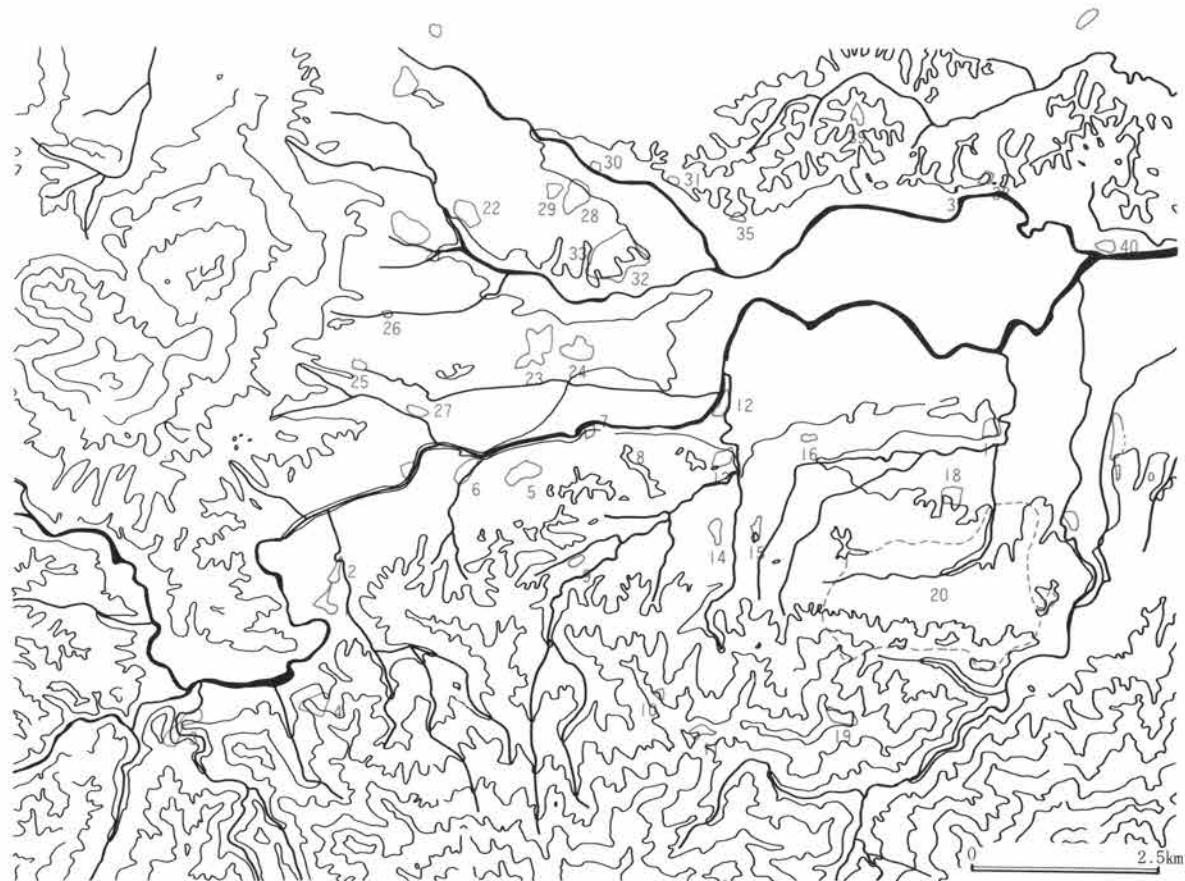
このように、鏑川周辺の城郭は、鏑川の周辺低地を取り囲むようにして、周囲の丘陵上に存在しており、この地域一体を全体で防御していたと考えられるであろう。

## 註

(1) 第112図は、1964年に調査して作成したものを、1987年8月に訂正し、さらに1988年10月発掘調査により再訂正したものである。

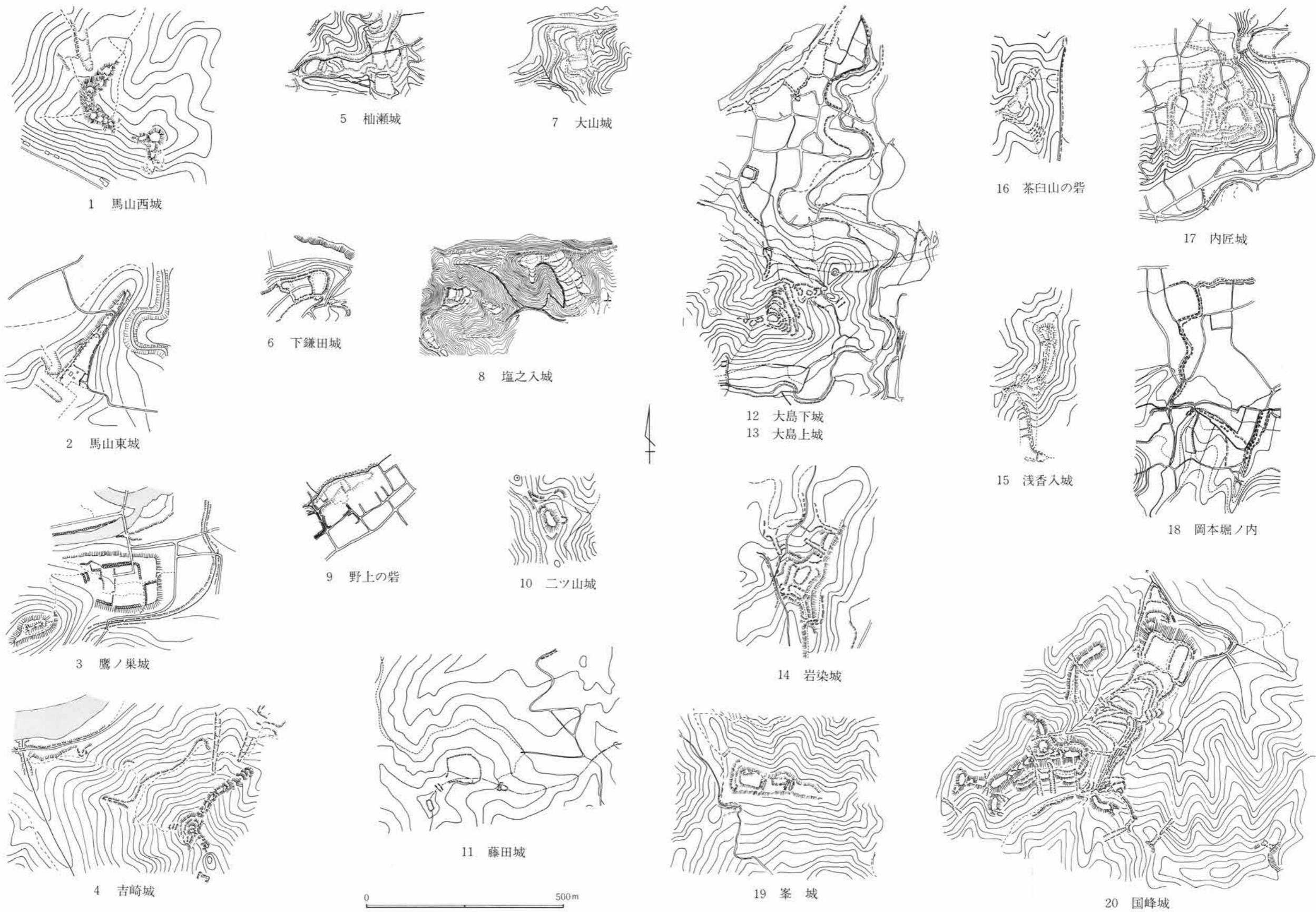
## 参考文献

山崎 一 1978 『群馬県古城墨跡の研究 上・下巻』 山崎 一 1981 『群馬県古城墨跡の研究 補遺篇 上・下巻』  
群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』



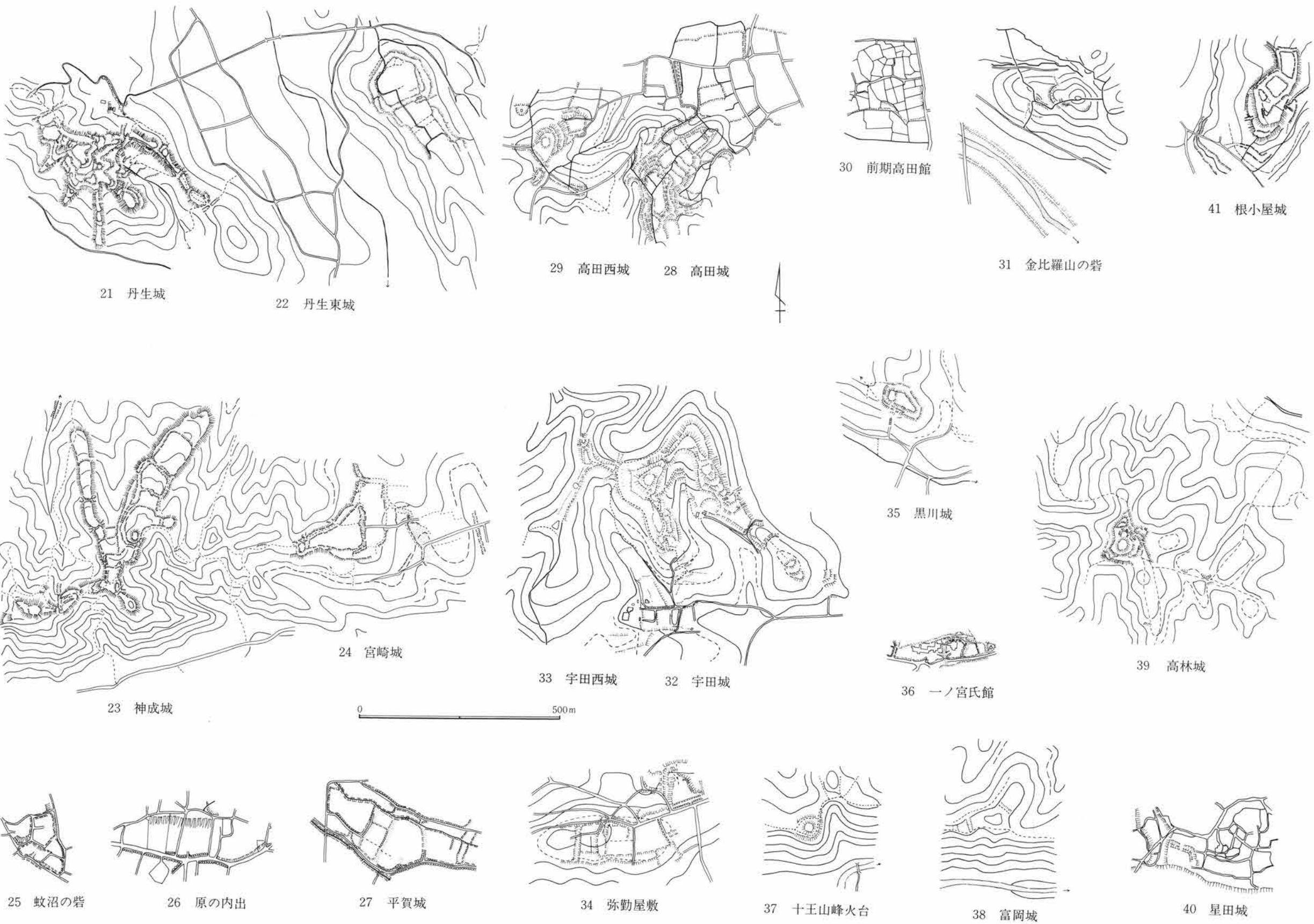
第113図 鎌川周辺中世城郭位置図

名 称 (別 称)	所 在 地	立 地	現 況	遺存 状況	存続期間	築・在城者 (推定伝承)	関連地名	遺構・遺物等	備 考
1 馬山西城	下仁田町馬山	山	山林	良		小幡氏	字東城山	堀切、腰郭	
2 馬山東城	下仁田町馬山	丘	寺、畠	中等		小幡氏	字東城山	腰郭	米山寺
3 鷹ノ巣城	下仁田町吉崎	丘、山	畠、山林	中等	16世紀	小幡信尚	字中島、おくるわ、 鷹ノ巣、大崩山	戸口、石垣、 物見郭、腰郭	
4 吉崎城	下仁田町吉崎	山	山林	良			字藤山	堀切、腰郭、 戸口、堅塚	
5 桧瀬城	下仁田町馬山	丘	畠、山林	良	天正末年	北条氏 小幡氏	字桧瀬、城原	堀切、戸口、 水の手、礎石列	63年発掘調 査 墓石・ 記紋皿等出 土
6 下鎌田城	下仁田町馬山	丘	畠	良	天正末年	北条氏 小幡氏	字下城、字鎌田	堀切、武者屯、 戸口、建物跡	63年発掘調 査
7 大山城	富岡市神農原	崖端	山林	良	16世紀	野宮信勝	字向山	戸口、堅堀、 堀切、土居	
8 塩之入城	富岡市野上	山	山林、畠	中等	16世紀		塩ノ入		当該遺跡
9 野上の砦	富岡市野上	丘	畠	不良			字内出、字番場、 字中井		野上地域城 の堡壘
10 二ツ山城	富岡市野上	山	山林	良	16世紀		二ツ山	土居、腰郭	野上地域城 の堡壘
11 藤田城	富岡市岩染 甘楽町秋畑	山	山林	不良		藤田彈正	字藤田、かがりた き場	堀切	のろし場
12 大島下城 (小間屋敷)	富岡市大島	崖端	宅地、畠	中等	16世紀	小間氏	大島、舟川	堀、土居、堀切、 石垣	大島上城の 里城
13 大島上城 (西平城)	富岡市大島	山	山林	良	16世紀		西平	堀切、土居、 戸口、腰郭	61年発掘調 査 野上地 域城の堡壘
14 岩染城	富岡市岩染	山	畠	良	16世紀		城山	堀切、腰郭、 土居、戸口	野上地域城 の堡壘
15 浅香入城	富岡市南後箇	山	山林	良	16世紀	浅香彈正	浅香入	戸口、腰郭	野上地域城 の堡壘



第114図 塩之入城周辺中世城郭縄張り図(1)





第115図 塩之入城周辺中世城郭縄張り図(2)



### 第3節 塩之入城について

	名 称 (別 称)	所 在 地	立 地	現 況	遺存 状況	存続期間 (推定伝承)	築・在城者 (推定伝承)	関 連 地 名	遺構・遺物等	備 考
16	茶臼山の砦	富岡市南後篠	山	畠	不良			茶臼山	腰郭	古墳を利用
17	内匠城 (井戸沢城)	富岡市内匠	崖端	山林、畠	良	天正年間	北条氏		堀、土居、戸口、櫓台、馬出土居、堀切、腰郭	62年発掘調査 櫓台に稻荷神社
18	岡本堀ノ内	富岡市岡本	傾斜地	寺、耕地	中等			字堀の内	堀	福寿院あり
19	峯城	甘楽町秋畠	山	山林	良			字峰、城山	堀切、土居、腰郭、櫓台	百庚申あり
20	国峯城 (竹の内館) (中ツ沢堀) (善慶寺遠堀)	甘楽町国峯 甘楽町国峯 甘楽町国峯 甘楽町国峯	山、丘、平地 平地 平地 平地	山林、畠、宅地、田 畠 堀 堀	良 中等 中等 不良	15世紀 16世紀	小幡氏 小幡氏 小幡氏 小幡氏	城山、城、御殿平、竹の内、中ツ沢、恩田、要害、宿平、根小屋、向い小屋、かじや跡、丸小屋、的場、さむらい屋敷 字竹ノ内、おやしき 中ツ沢 恩田、善慶寺	堀、堀形、堅堀、土居、土橋、戸口、腰郭、水の手、遠堀、根小屋、惣郭、物見台 削平地	町指定史跡 60年農地改良で試掘
21	丹生城	富岡市丹生	丘	畠、山林	良	15世紀 16世紀	新田岩松氏 小幡信実	字中村、字上丹生、字小屋敷	戸口、腰郭、水の手、根小屋、堀切、土居	
22	丹生東城	富岡市丹生	丘	畠	良		横尾丹波守	字城山	堀切、腰郭、戸口	丹生城の支城
23	神成城	富岡市神成	丘、山	畠、山林	良	16世紀	小幡氏		堀切、土居、腰郭、戸口、水の手、物見台	宮崎城の要害城
24	宮崎城	富岡市宮崎	丘	畠、校地	不良	16世紀	宮崎和泉守 小幡信昌	櫛岡、風呂、城谷	堀切、堀、腰郭、水の手	一時奥平信昌の近世城郭となる
25	蚊沼の砦	富岡市蚊沼	丘	宅地、寺	不良			字内出	堀、腰郭	
26	原の内出 (丹波屋敷)	富岡市原	傾斜地	畠、宅地	不良		横尾丹波守	字内出		
27	平賀城	富岡市中沢	台地	宅地、畠	不良		内山氏	字平賀、字垣崎		内山氏は信州平賀の族
28	高田城	妙義町下高田	丘 平地	畠、宅地	良	16世紀	高田氏	字城腰、字本村、字觀音寺、上城、池の谷、踊沢	堀切、土居、戸口、腰郭、堀、根小屋	高田憲頼の城
29	高田西城	妙義町下高田	丘	山林、畠	中等	16世紀	高田氏	字本村、字西平、山王平、西城	堀切、腰郭、のろし台	高田城ののろし場 山王神社あり
30	前期高田館	妙義町下高田	平地	畠	消滅	13~15世紀	高田氏	字新光寺前、堀の内		
31	金比羅山の砦	妙義町下高田	平地	山林、社	中等	16世紀		字東明戸、押出	腰郭、のろし台	
32	宇田城	富岡市宇田	山	山林、畠、寺	良	16世紀	小幡影定	字城山、字北成、字東小谷	堀切、土居、腰郭、戸口、水の手、堅堀	63年一部発掘調査
33	宇田西城	富岡市宇田	丘	寺、耕地	良		甘楽友成 小幡氏	字西小谷、字陣田ヶ谷、字恵下原		神守寺がある
34	弥勒屋敷	富岡市一ノ宮	丘	畠、墓地	良	16世紀	尾崎氏	字弥勒	堀	
35	黒川城	富岡市黒川	丘	苗圃、畠	不良		渋谷高重	字雨宮	堀、帯郭、土壇	近年壊され苗圃となる
36	一ノ宮氏館	富岡市一ノ宮	丘	公地	中等	16世紀	一ノ宮氏		堀、堀切、土居、帯郭	貫前神社の西に続く
37	十王山烽火台	富岡市別保	崖端	公園	良	16世紀	小幡氏	十王山	腰郭	のろし台
38	富岡城	富岡市別保	丘	山林	不良			字城山	堀切	
39	高林城 (黒岩城)	富岡市上黒岩	丘	山林	良		小野氏	字田中	堀切、土居、腰郭、戸口	
40	星田城	富岡市星田	崖端	畠	中等			字城、字地神木	堀、土居、戸口	
41	根小屋城 (蕨城)	富岡市蕨	丘	畠	良	16世紀			堀、堀切、腰郭、戸口	

(群馬県教育委員会 1988『群馬県の中世城館跡』より抜粋 一部改変)